

「学生活動助成金」による活動の報告

医療工学部 海外研修グループ

代表／義肢装具学科 4 年 那須 葵

本学部の海外研修は、平成 16 年度の開始以来、本年度は 11 回目を迎えました。本年度の研修グループは、現地において医療・福祉工学に関する研修の傍ら、いくつかのボランティア活動に取り組みました。

報告したいのは、1)高齢者住宅 Mennonite Village、2)日本語教育学校 Sheridan Japanese School、3)入院患者家族対応宿泊施設 Mario Pastega House でのボランティア活動です。

1) 高齢者住宅 Mennonite Village

高齢者施設メノナイトは、自立した高齢者から重度の認知症の高齢者まで、様々なタイプの老人に住宅を提供している施設です。この施設での視察研修の後、私たちは自立した高齢者との交歓会に臨み、折り紙やけん玉、合唱の披露を通じて交流をしました。



2) 日本語教育学校 Sheridan Japanese School

Sheridan Japanese School は日本語教育を中核に据え、教育活動を展開している学校です。ここを訪問した私たちは、日本語教室のゲストスピーカーとして同校で学ぶ生徒たちと交流しました。また、パフォーマンスの交流も行われ、親善関係が深まりました。来年 6 月、同校の生徒たちは北海道を旅行する予定を立てており、本学もぜひ訪問してくれるよう勧めてきました。



3) 入院患者家族対応宿泊施設 Mario Pastega House



Good Samaritan Regional Medical Center に付設されている入院患者家族対応宿泊施設を訪れ、家族に急な入院患者がでて困惑している人々を支援する活動のお手伝いをしました。施設で必要とされている生活用品を購入し、施設にプレゼ

ントしました。この活動は本年度で 10 年目になります。